

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	タブレット端末および ICT 機器を用いて、個々の生徒の特性を踏まえた学習活動を行わせ、学習の理解度及び学習意欲の向上を図る。	中間評価		最終評価	
環境作り	重 点	校内の消毒や換気、マスクの着用、手指の消毒を励行するとともに、ソーシャルディスタンスにも留意し安心できる授業環境を整える。	中間評価		最終評価	

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>学 2・3年生はどちらも意欲的に授業に参加し、熱心に学習活動に取り組んでいる生徒が多い。第3学年は読み物教材にやや苦手意識を感じている。一方で第2学年では家庭学習が定着していない生徒や提出物に対する意識が薄い生徒が一定数いる。また、第3学年においては、やや集中力にかける生徒が少数存在する。</p> <p>調 第2学年では、基礎・活用ともに目標値を下回っている。特に漢字に関して読む力は高いが、書く力が著しく下回っており、課題が見られる。</p> <p>調 第3学年では、基礎・活用ともに目標値を上回っている。ただ、漢字を書く力のポイントが低くなっている。</p>	<p>：読み物教材への苦手意識を払拭するようする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度を養うために、多くの単元で「書く」課題を設定し、自分の言葉で文章を書けるようにする。 ・年度当初に1年間の漢字学習の見通しを示し、家庭学習を含めて漢字を学習する機会を増やし、より多くの漢字を身に付けさせる、全体的な底上げを図る。 ・コロナ感染防止に配慮しながら、話し合う活動を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材への、より主体的な取り組みを図る授業。多方面からの教材へのアプローチや、生徒の興味関心をより引き出す授業の導入などを行い、苦手意識を持った生徒も進んで取り組んでいくようする。 ・できるだけ、多くの単元でそれぞれテーマ（課題）を設定し、作成過程を重視しながら、設定された字数で作文を完成させる。また進んで習得した言葉、漢字を用いるように促していく。 ・漢字練習ノートを定期的に点検するとともに、各学年のボーナスノート（家庭自主学習）などでも進んで、新出漢字を習得する学習を行っていく。小学校で習得した漢字も含めて、小テストの回数を増やし、定着度を随時確認するようする。 		
社会	<p>学 第2学年では、授業に対して高い興味・関心をもっている生徒がいる一方、集中して授業に取り組む姿勢がもてていない生徒がいる。</p> <p>学 第3学年では、集中して授業に取り組む姿勢がある一方で、自分の考えを記入したり、発言したりすることを苦手にしている生徒が多い。</p> <p>調 第2学年の新宿区学力定着度調査の結果は、新宿区平均・全国平均ともに下回っており、学習内容の定着に課題があつたと言える。基礎は目標値を上回っているが、活用で下回っており、地理に比べて歴史的分野の正答率が低い。</p> <p>調 3学年の新宿区学力定着度調査の結果は、新宿区平均をわずかに下回っているが、全国平均は上回っている。基礎は目標値を上回っているが、活用で下回っており、地理に比べて歴史的分野の正答率が低い。</p>	<p>・基礎的な用語・語句についての知識・理解力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野の学習では、学んだことが現代とどうつながりがあるかの解説などを丁寧に行う。 ・学んだことをまとめたり、他人に伝えたり、全体で発表したりする力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに小テストを実施し、基礎的な用語・語句の定着状況を確認する。 ・1単位時間の中で学習したことを文章にまとめ、発表する機会を設定する。 ・必要な情報がわかりやすく、誰でも使いやすいユニバーサルデザインを目指し下位層の生徒への授業参加意欲を高める。 ・講義形式の説明の時間を少なくし、生徒同士が思考する時間を多く設定する。 ・教員が机間指導をすることによって、生徒の理解度を図りながら進め、支援が必要な生徒を見つけ、サポートしていく。 ・タブレット端末に搭載されている意見交換ツールを活用して、一人一人が思考したことを表現しあい、クラス全体での主体的・対話的な深い学びを目指す。 		
数学	<p>学 第2学年では、意欲的に取り組む姿勢が見受けられる。一方で、提出物への意識が薄い生徒が一定数いる。</p> <p>学 第3学年では、高い意識をもって積極的に取り組んでいる生徒が多く見られる。一方で、集中力に欠ける生徒が少しいる。</p> <p>調 第2学年では、基礎・活用ともに目標値を下回っている。領域別にみると「数と式」は、7.9ポイント下回っており、内容別では、文字式が10.5ポイント下回っており、課題が見られる。</p> <p>調 第3学年では、基礎・活用ともに、目標値を大きく上回っている。また、区平均、全国平均ともに上回っており、基礎から活用までの学力の定着ができている。</p>	<p>・数学における基礎的な知識の定着を図るとともに、基本的な計算問題などを解けるようする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって課題に取り組めるように、課題の内容を精選し、提示の仕方を工夫する。 ・文章を読み、的確に課題を読み取り、適切に判断することに課題が見られる。 ・習熟度別学習指導の形態を生かし、上位層の維持と下位層の底上げを一層図ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の定着を目指し、一つ一つ丁寧に確認しながら指導していく。 ・授業のねらいを明確に示し、学習量や学習進度を調整し、1単位時間の授業内で確実に知識や技能を身に付けさせる。残り5分はその日の授業内容の振り返りを行い、学力の定着を図る。 ・図形やグラフの単元では積極的に ICT 機器やデジタル教科書を活用し、主体的に取り組む力を育む。また、課題の読み取り方について問題演習を通して繰り返し指導する。 ・年間を通して、習熟度別少人数指導を行い、個に応じた指導を行う。習熟の程度に応じた演習課題を使用し、学力向上に努める。また、タブレット端末を使用し、自分の弱点を把握し、克服する。 		

理科 <p>調第2学年では、全体的に基礎・活用とも目標値よりも下回っている。単元によっては目標値を上回っているものもあるが、全体的に基礎・基本の定着が不十分であり、知識を活かして考える力が身についていないことが見られた。また、レポート等の考察や自分の考えを表現することに課題が見られる。</p> <p>学第2学年では、実験や観察に強い関心を持ち、積極的に行っている一方、座学では積極性に欠ける生徒が多く見られる。</p> <p>調第3学年では、全体的に基礎・活用とも目標値を上回っており、基礎基本が備わっていることが伺えた。また、その知識を活かして考えることができている。</p> <p>学第3学年では、授業に対して意識を高くもち、受けることができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染防止に配慮しつつ、実験、観察に積極的に取り組ませる。実物に触れることでしか感じることのできない感覚を感じさせ、それを興味関心と知識に結び付けていく。 他教科との関連を重視しながら、理科における基礎・基本の定着を図るとともに、実験、観察の基礎技能を習得させる。 タブレットを積極的に活用し、実験のデータをまとめたり、グラフ化することにより、理解を高める。また、調べ学習を積極的に取り入れ、知識をより深めさせていく。 基礎基本が不十分な生徒に対しては、課題内容を工夫するなど、個別指導等を行い、基礎学力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に単元の振り返りを行い、基本的事項の定着状況を確認する。 学習内容の理解度や取り組み姿勢について、自己評価・振り返りを行わせ、自分自身にこれから必要なことについて考える機会をつくる。 調べたことや考えたことを発表し、振り返ることで、表現力を高めるとともに自分の考えに深みを持たせることができるように授業をする。 実技試験（ガスバーナー取扱い、顕微鏡取扱い等）などを通じて、知識だけでなく、その場に応じた力を発揮できる場面を設定する。 小テストを適宜行い、生徒の学習状況を確認するとともに、基礎学力向上のための課題を工夫し、提示する。 		
英語 <p>学…第1学年は、小学校からの申し送りでは学習への理解が乏しい生徒が多いと聞いているが、現段階では周りと協力しあいながら、意欲的に取り組もうとする姿がある。今後、理解度確認テストや提出物への取り組み状況を見て、学習状況を丁寧に見ていく必要がある。第2学年は、昨年度は提出物が取り組み状況に課題があったが、学年が上がったことにより、気持ちを切り替えて意欲的に取り組もうとしている生徒が多くなった。第3学年は、受験を意識し、今まで以上に授業に意欲的に取り組み、ほとんどの生徒が提出物に取り組んでいる。</p> <p>調…第2学年は学力調査の目標値に達していない項目がほとんどであり、全国の正答率とほとんど同じ数値である。また正答率が5割を満たさない、下位層の生徒も多いので、語彙と文法に重点を置いた基礎基本の定着を今後も図っていく。第3学年は学力調査の正答率が全校平均・区平均共に上回った。上層部の生徒数が増加し、英検受験への意欲も高い。下位層も、4割程度は理解できているので、さらに底上げをしていく。また、聞くこと・読むことの能力が全体的に低いので、強化していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着 既習事項を活用した自己表現能力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 活動や教科書の読解を通して、key sentence の確認を丁寧に行い、活用ができるように指導していく。また、授業後にワークの課題を設けたり、デジタルドリル等を活用したりすることによって、学習内容の定着を図る。定期考査のみではなく、定期的な理解度確認テストを実施し、学力下位層の底上げも強化していく。 ペアワークやクラス内の生徒間の活動を増やし、生徒が主体的に学ぼうとする態度を育成する。また、タブレット端末を活用して、言語活動の時間を多く設ける。 ALTとの関わる機会を多く設ける中で、思考力・判断力・表現力の向上を目指す 		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況